

## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	神戸女学院大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	地域実践活動を創造できる臨床心理士の養成		
主たる研究科・専攻名	人間科学研究科人間科学専攻臨床心理学分野		
(他の大学と共同申請する場合の 大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 山口 素子		
<p><b>[教育プログラムの概要]</b></p> <p>本学は愛神愛隣を建学の精神に掲げ、社会に貢献できる知識・技能と篤き人類愛を抱く女性を数多く輩出してきた。また、社会と時代のニーズに即応して、大学院人間科学研究科に臨床心理学分野を1997年に設置し、心の健康と自己実現を支援する臨床心理士の養成を行ってきた。そして2002年には博士前期課程が、財団法人臨床心理士資格認定協会より、臨床心理士養成のための大学院第一種指定を受けるに至った。また本研究科臨床心理学分野は1997年に心理相談室を開設（前身である児童相談室の歴史はさらに15年遡る）し、心に困難を抱えた子どもの成長と、様々な年齢層の女性の自己実現を支援してきた。既に本分野の修了生の多くは、臨床心理士資格を取得し、教育領域、福祉領域、医療領域で職を得て、子どもや女性を主な対象として臨床実践に従事している。このような実績を考慮し、本分野の教員は、上記の対象・領域に対応する実践家を育てる教育課程を充実させるべく、教員組織を編成し、教育プログラムの拡充を行ってきた。</p> <p>一方、社会においては、従来からの医療・児童福祉領域に加えて、家庭や幼稚園・保育園における子育て支援、小中学校でのスクール・カウンセリングや不登校児への支援、男女共同参画社会や生涯学習へのサポート、はたまた地域コミュニティの再生等、臨床心理学的援助が役立つ場面が多々あると思われる。しかし現況では、臨床心理士こそその数を着実に増やしているが、その活動の場は既存の職場に限られ、上記の地域社会のニーズに十分に答えられていない現実がある。こうしたミスマッチを解消するためには、単に臨床心理学の専門知識と技能を修得するだけではなく、地域の臨床的ニーズをリサーチし、関連他職種の実践家とも協働しつつ、支援活動を新たに創造していく能力が求められている。面接室で来談者の訪問を待つばかりでなく、積極的に地域住民の生活の場に入り込み、臨床心理学の専門性を活かせる活動を自ら企画・開拓していく臨床心理士を養成するのが本プログラムの目的である。</p> <p>上記の目的のため、本分野では既に以下のような試みを、大学院生や修了生に積極的に参加させて、教育課程（履修科目）外で行ってきている。(a)心理相談室の活動を拡大するための地域臨床ニーズのリサーチと教員・院生の現場への派遣（アウトリーチ） (b)子育てや女性の自己実現を支援する講演会やワークショップの開催（計画中を含む） (c)教育・医療現場へのボランティア派遣（心理臨床インターンシップ） (d)実践活動に関する研究とその公表（心理相談室紀要の発行） (e)本研究科を修了し多様な現場で活動する臨床心理士との定期的交流（修了生のリカレントを兼ねる）。これらの活動を通して我々は、女性の臨床心理士が、出産や子育てを通して女性が母親となる過程、また中年期以降に女性が自分らしさを探求する過程、あるいは乳幼児・児童の発達過程等の支援に、特に貢献できることを経験的に確認している。と同時に、既存の職域や職場の枠を越えて、新たな支援の場と支援の方法を創造的に開発する必要性を痛感している。そこでこれらを教育課程と心理相談室の活動に有機的に結びつけ、より組織的・体系的に実践することで、院生の教育と大学の地域貢献に役立てようと考えている。</p> <p>具体的には、①1年次に、地域臨床ニーズのリサーチと、関係機関とのネットワークの構築を行う。②1,2年次に、教員が一般者を対象に行うワークショップ、スキル・トレーニング、また諸施設でのスーパービジョン等に補佐として参加し、実践の技能を修得する。③2年次に、多様な地域臨床活動の現場へ1年間の臨床心理地域実践実習（心理臨床インターンシップ）を実施する。④以上の臨床心理学的地域支援について研究としてまとめ、2年次の終わりに修士論文あるいは心理相談室の紀要等で発表する。これらの活動を実施するに当たって必要な実践上の知識、臨床的態度や技能を、既存の講義や演習、実習等で確実に修得させる。本分野は、臨床心理士養成課程として、臨床心理士になるために必要な知識・技能を修得する教育課程を既に持っている。これを基礎に、上記の目的に向けた、高度職業専門人育成への実践的教育内容に特化したカリキュラムの強化を図るものである。</p>			



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、単に臨床心理学の専門知識と技能を修得するだけでなく、「積極的に地域住民の生活の場に入り込み、臨床心理学の専門性を活かせる活動を自ら企画・開拓していく臨床心理士を養成する」という、今日必要とされている人材養成目的が明確に掲げられており、その実現のための体系的な教育課程が整備されている。また、比較的小規模である大学院の特徴を活かし、日常的に学生の意見を汲み上げ、授業内容・方法等の改善に結び付けるファカルティ・ディベロップメントが実施されている点は優れている。

教育プログラムについては、人材養成目的を具現化するための多様な地域臨床活動の現場で行う「心理臨床インターンシップ」等が提案されており、今後の成果が期待できる。

ただし、教育プログラムについては、当該大学の特色を活かした特徴を明確にすることが必要である。